

NEWS

産業廃棄物処理業における リスクアセスメント研修会開催

(一社)愛知県産業廃棄物協会安全衛生委員会(加山昌弘委員長)は2月2日(火)午前9時30分から名古屋国際会議場(名古屋市熱田区)において、中央労働災害防止協会(中災防)中部安全衛生サービスセンター 専門役・安全管理士 野口正明氏を講師に招いて、産業廃棄物処理におけるリスクアセスメント研修会を開催しました。



開会挨拶をする
加山安全衛生委員長

この研修会は職場における労働災害等の減少を目指すもので、会員91名が受講しました。

開会挨拶で加山委員長は「リスクアセスメント研修会は今回で9回目を迎え、今年は多くのご参加を賜りありがとうございます。安全衛生委員会は皆様の健康と安全に寄与するべく、怪我の無い日々の業務の運営について学ぶ研修会を開催しております。安全とは何か?安全に対する考え方、安全の基本についてこの場で学び、是非職場で広めてください。」と述べました。



講師の中災防
野口専門役

次に野口講師からスライドを活用して講義が始まり、労働災害における産廃処理業の現状報告及び事故の発生状況(1位 墜落転落、2位 はさまれ・巻き込まれ、他)などを踏まえ、これからの安全管理としてリスクア

セスメントが、重要な役割を担っていることを強調しました。

■法的な位置づけとして3つの指針

- ・危険性又は有害性の調査等に関する指針
- ・化学物質等による危険性又は有害性等の調査等に関する指針
- ・機会の包括的な安全基準に関する指針

特に化学物質のリスクアセスメント義務化は、事業所におけるリスクアセスメントが義務付けされ、譲渡提供時に容器などへラベル表示が義務付けとなり、平成28年6月1日以降該当する場合に実施されますので注意が必要です。

■安衛法に追加された項目(リスクアセスメント関係)

- ・総括安全衛生管理者が統括管理すべき業務
- ・安全衛生委員会の付議事項
- ・安全管理者、職長教育の教育内容

実施時期として見落とされがちな内容として、機械設備の経年劣化、労働者の入れ替わり等に伴う知識経験の変化、新たな安全衛生に係る知見の集積などを紹介されました。演習として数名のグループとなり、リスクアセスメント実施報告書を作成し発表を行いました。閉会の挨拶では協会専務理事 安藤均氏より、産廃業界の労働災害死傷者数1,244人(昨年データ)という実状を踏まえ、現在全国産業廃棄物連合会において安全衛生委員・加山委員長らが、労働災害防止計画を来年策定の予定で進めていることについて述べました。

安全への願い 加山安全衛生委員長

産廃業界は他の業種に比べ、度数率(災害発生の頻度)や強度率(災害の重さの程度)が圧倒的に高く、これは安全への認識が周知されていないことが原因ではないでしょうか。産廃はこれからの循環型社会を構築していくためにも、無くてはならない産業です。研修会はそれを支える従業員の皆様の安全を心から願い開催しております。朝家を出て、無事家に帰り笑顔で過ごす、当たり前の毎日を送るためにも、事故やケガの無い業界を作る、それは後進の育成にもつながります。自分を守る、仲間を守る、会社を守る、ひいては家族を守るにつながることを忘れないでください!